

注 意 報

茨城県病害虫防除所

平成 26 年 2 月 25 日

病害虫発生予察注意報 第 2 号

イチゴのハダニ類の発生が増加しています

発生状況をよく観察し、収穫前日数に注意して防除を徹底しましょう！

[発令の内容]

作物名 : イチゴ
病害虫名 : ハダニ類(主にナミハダニ黄緑型)
発生量 : 多い
発生地域 : 県下全域

[発令の根拠]

- ① 2 月下旬現在、県内 9 地点のイチゴ調査圃場におけるハダニ類(写真)の寄生葉率、被害葉率、被害発生地点率はいずれも平年より高い(表 1)。
- ② 例年 1 月から 2 月にかけて寄生葉率は同程度に推移するが、本年は増加した(図 1)。また、昨年 11 月以降、ハダニ類による被害葉率、発生地点率ともに平年値より高く推移している(図 2, 3)。
- ③ 例年 2 月から 3 月にかけて被害葉の発生が増加する傾向にある(図 2, 3)。今後、気温の上昇に伴い、ハダニ類の活動が活発になるため、被害がさらに増加すると考えられる。

表1 2月下旬のイチゴ圃場におけるハダニ類の発生状況

	本年値	平年値 ¹⁾	順位 ²⁾
寄生葉率 ³⁾ (%)	31.4	9.4	1/6
被害葉率 ⁴⁾ (%)	37.1	9.5	1/11
被害発生地点率(%)	78	47	1-3/11

- 1) 平年値：平成 16 年～25 年(10 年間)分のデータの平均値。
ただし、寄生葉率については平成 21～25 年(5 年間)分の平均値。
2) 順位：過去の調査年数における本年の順位を示す。
3) 寄生葉率：生きているハダニ類の寄生を認めた葉の発生率。
4) 被害葉率：ハダニ類の被害を認めた葉の発生率。
※調査は県内 9 地点で実施した。



写真 ナミハダニ黄緑型成虫

[防除対策]

- ① ハダニ類は増殖が速く、発生が多くなると防除が困難となる。虫めがね等を用いて、葉裏を中心に圃場全体の発生状況をよく確認し、表 2 を参考に、発生の少ないうちに防除を徹底する。既に多発している圃場では、速やかに防除を実施する。
- ② 薬剤は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう、十分な量で丁寧に散布する。なお、薬剤は古い下葉を除去してから散布すると、薬液が葉裏にもかかりやすくなり効果的である。
- ③ 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、気門封鎖剤を除き同一系統・同一薬剤の連用を避ける。
- ④ ミツバチや天敵を使用している場合は、薬剤の影響日数等に十分注意する(表 2)。

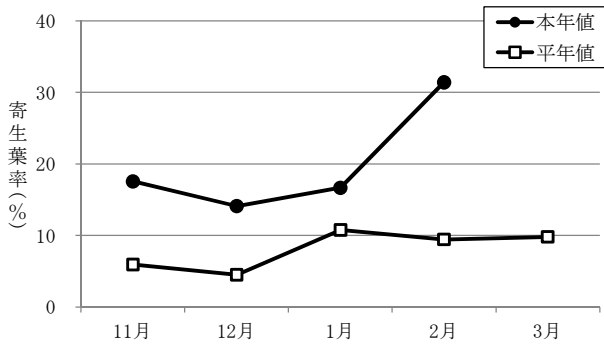


図1 ハダニ類による寄生葉率の推移

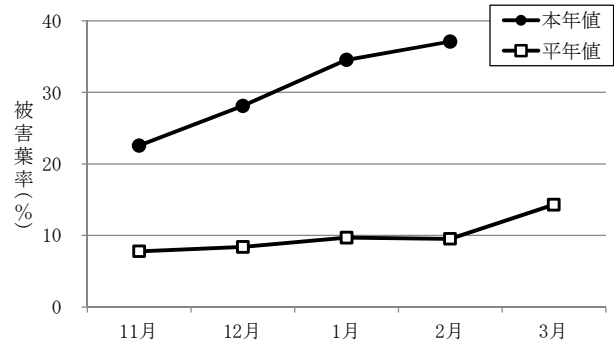


図2 ハダニ類による被害葉率の推移

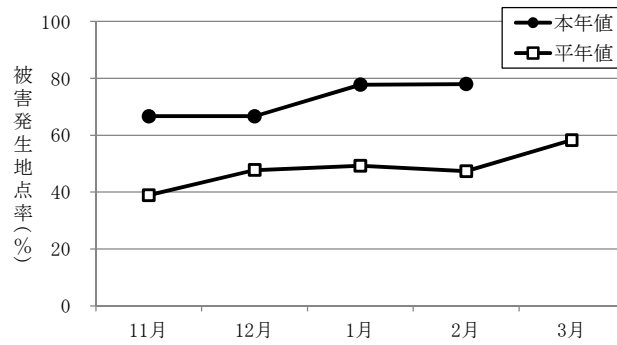


図3 ハダニ類による被害発生地点率の推移

※図1の平年値は過去5年間(ただし、3月のみ4年間)の平均値、図2および3の平年値は過去10年間(ただし、3月のみ9年間)の平均値を示す。

表2 イチゴのハダニ類に使用できる主な薬剤(平成26年2月12日現在)

薬剤名	希釈倍数	収穫前日数 一本剤の 使用回数	有効成分	ミツバチに対する 影響日数の目安 ¹⁾	天敵への 影響日数 ²⁾	
					ミヤコ カブリダニ	チリ カブリダニ
アフーム乳剤 ^{★☆}	2,000倍	前日-2	エマメクチン 安息香酸塩	2日	- ³⁾	-
カネマイト フロアブル	1,000~ 1,500倍	前日-1	アセキノシル	翌日 ⁴⁾	0日	0日
コテツ フロアブル	2,000倍	前日-2	クロルフェナピル	10日	7日	-
コロマイト水和剤 [★]	2,000倍	前日-2	ミルベメクチン	1日	1日	-
スターマイト フロアブル	2,000倍	前日-2	シエノピラフェン	翌日 ⁴⁾	-	-
粘着くん液剤	100倍	前日--	ヒドロキシ プロピルデンブン	1日	* ⁵⁾	*
マイトコーネ フロアブル	1,000倍	前日-2	ビフェナゼート	1日	0日	0日

- 1) 農薬会社から得られた情報をとりまとめて記載した。あくまでも目安であり、日数が前後することがあるので注意する。
 - 2) 日本バイオリジカルコントロール協議会作成の「天敵等への殺虫・殺ダニ剤の影響の目安」から抜粋して記載した。天敵の卵や成虫への影響も参照の上、薬剤を使用する。
 - 3) -はデータなしを示す。
 - 4) 影響がほとんどなく、翌日に導入可能。
 - 5) *は薬液乾燥後に天敵を導入する場合は影響がないが、散布時に天敵が存在する場合には影響が出る恐れがあることを示す。
- ★アフーム乳剤とコロマイト水和剤はどちらもマクロライド系剤のため、連用を避ける。
 ☆アフーム乳剤は天敵の卵および成虫に影響が大きいので注意する。
 注) 農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載されている使用方法・注意事項等を必ず確認のうえ、周辺作物への飛散に留意する。